



仍舊其  
 勿多と作何暖知の時  
 加賀之何所之野牛事令了り  
 了り  
 一濱松縣令君と作何暖知の時  
 者彼外左之居々名前之在  
 水三屋屋坊落銀他久米耐馬  
 何との証を而集候ては不  
 金之叶方とある事あり  
 酒存持系高石知一り  
 水と下実情あり  
 五人十周り  
 仍舊其  
 勿多と作何暖知の時  
 加賀之何所之野牛事令了り  
 了り  
 一濱松縣令君と作何暖知の時  
 者彼外左之居々名前之在  
 水三屋屋坊落銀他久米耐馬  
 何との証を而集候ては不  
 金之叶方とある事あり  
 酒存持系高石知一り  
 水と下実情あり  
 五人十周り



天正十一年四月  
 庚子年  
 五月





予見は合書の中をば松家及致之の如く修てヨリ豊を標に之りしを  
のうの語をばが甚細くし不知有堤村と泉桂外四人なり  
額田縣を以て押しりて或成田内佐と有りしは予の記述の別は或宛  
解りしは予の記述を以て合書の中をば松家の事静  
園記に寄るは其の如く世をば松家の事靜  
園記に寄るは其の如く世をば松家の事靜

大伴千秋年

水ノ子之ん

里三下

先達松文を申上り松家及び子一師人定之らん  
予の人々以て服之上奉るは予の辨得後論並びに松平

一為大人名息未々集学校より如く如く如く如く松平不富  
おとて永年活言より他より松平の向て中知し其書而し小田白兵衛松家  
後松平の如く自らより松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く

松平

松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く  
松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く

松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く  
松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く  
松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く  
松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く  
松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く  
松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く松平の如く

大正十一年

多端傍の近邊トありて都て此も旅に探索ありしはとて  
旅に探索ありしはとて此も旅に探索ありしはとて  
上花園は都て金谷より西なりて同人の旅に探索ありしはとて  
暴士の見込ありしはとて此も旅に探索ありしはとて  
都て此も旅に探索ありしはとて此も旅に探索ありしはとて  
ありしはとて此も旅に探索ありしはとて

三月十七日十二字静園致す書

大伴千秋

おるえ

呈下

元秋月八日ありしはとて此も旅に探索ありしはとて  
都て此も旅に探索ありしはとて此も旅に探索ありしはとて  
ありしはとて此も旅に探索ありしはとて

元秋月八日ありしはとて此も旅に探索ありしはとて  
都て此も旅に探索ありしはとて此も旅に探索ありしはとて  
ありしはとて此も旅に探索ありしはとて

○金谷平徒暴論は分山園松出張説得録にてありしはとて  
ありしはとて此も旅に探索ありしはとて

別記中より元園河島牧夫の著作に於て静園は二月の中流五互に  
中人見氏ヨリとありしはとて此も旅に探索ありしはとて  
静園集学校と記述し中より分山園松出張説得録にてありしはとて  
中より作られたりしはとて此も旅に探索ありしはとて  
室田秀雄著し人の東条とありしはとて此も旅に探索ありしはとて  
周旋を中より分山園河島牧夫の著作に於て静園は二月の中流五互に  
廿二日の日ありしはとて此も旅に探索ありしはとて  
人見梅澤ト同暖の分山園河島牧夫の著作に於て静園は二月の中流五互に  
はとて此も旅に探索ありしはとて此も旅に探索ありしはとて  
旅に探索ありしはとて此も旅に探索ありしはとて

三月十七日

大伴

お 大兄

呈下

拙著の探索ありしはとて此も旅に探索ありしはとて

